

「賛否拮抗」に持ち込んだ草の根の運動を確信に 最後まで市民に正確な情報届けて「大阪市廃止 ノー」の勝利を切り開こう

「明るい会」「よくする会」が団体・地域連絡会活動者会議 柳党大阪府委員長が報告

大阪住民投票勝利へ「明るい会」と「よくする会」の団体・地域連絡会活動者会議が26日に開かれ、柳利昭党大阪府委員長が報告しました。

1)最終盤の情勢—「圧勝」をもくろんだ維新に、「大阪市廃止に反対」の市民の声が激しく追い上げ、「賛否拮抗」まで持ち込んできた。ここには大阪市民の良識と、私たちの奮闘、共同する市民諸団体の努力が反映している。

「まだ決めかねている」「なんとなく都構想がよさそう」が、まだ2割から3割。勝敗は、この人たちに働きかける、最後の7日間の私たちのたたかいにかかっている。

2)最終盤の訴えの方向—①大阪市の廃止か、それとも130年の歴史を持つ大阪市の存続か②権限・財源を奪われ住民サービス切り捨てか、大阪市の力を生かした拡充か③コロナ禍でもカジノ・インバウンド頼みか、命と福祉・暮らし第一に転換するのか。この3つの焦点を貫こう

■住民投票は「大阪都にするかどうか」でなく、「大阪市を廃止するかどうか」の選択

■住民サービス切り捨ては最大の焦点—高まる批判に追い詰められた維新は、にわかに「住民サービスの充実」を叫び、最新のピラでは「大阪都構想実現で住民サービス、グリーンとアップ」「財政効率化で10年で1兆1千億円、住民サービスに還元されます」と仰天宣伝。1兆1千億円は、専門家から「これが卒業論文なら落第」と言われる空論

■「未来」が語れない維新に対して、「住民サービスの充実ができるのは、大阪市を残し活かしてこそ」、「カジノや夢洲開発でなく、社会保障や中小企業支援で経済成長を」の訴えを。

3)勝利をめざすたたかいの方向—住民投票は大阪の自治と民主主義、市民のくらしと営業を守りぬくたたかい。その勝利の展望は、130年の歴史を持つ大阪市をなくしてはならないという大阪市民のみなさんの熱い思いと良識の発揮にある

■対話の遅れ打開へ、両会の全構成員決起で「100万人対話」をやりぬき勝利をつかもう

最新の世論調査結果（10月23～25日調査）

○「共同」「毎日」「産経」など 反対43.6（前回<9月4～6日>比較+4.0）
賛成43.3（同比較-5.9）

見出し「毎日」=都構想反対 僅差で逆転

「大阪日日」（共同）=都構想賛否二分 反対が10%差詰める 説明不足70%のまま

○「読売」反対41%（前回<9月>比較+7）賛成44（同-4）

見出し 都構想 賛否拮抗

○分からない・無回答＝「共同」など13.1（前回比+2）

答えない＝「読売」15

○説明 「共同」など 十分でない70.0 十分24.5

「読売」 不十分51 十分37

20近畿ブロック事務所ニュース

Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115

【府県・地区・地方議員御中・部内資料】

No. 59(2020.10.26)